

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月3日

平成30年度(2年目)

事業コード	29	事業名	事務局体制のあり方指針の策定				戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会
担当部名	企業振興部		担当課名	創生プラン推進課	担当課長名	加藤慎也	施策コード	15	施策名	支所統合を含む事務局体制のあり方指針の策定

[illegible]

【取組評価】						
取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
69	事務局体制のあり方指針の策定	支所のあり方の見直しを中心として、商工会広域連携の現状、事業評価・受託業務等の実施要領など、事務局体制のあり方指針の策定に取り掛かっている。	b	b	c	B

評価指標と実績																	
達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)																	
取組コード						取組コード						取組コード					
指標名						指標名						指標名					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】			
1. 3つの観点からの評価			
【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性	取組評価の必要性が	a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合)	b
〈評価の理由〉			
財政面、人員配置数等から見て、将来的に支所の維持管理が可能かどうかの基準となるガイドラインをは早急に提示する必要がある。			
【有効性の観点】 事業目標の達成状況	取組評価の有効性が	a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合)	b
〈事業の目標は達成されているかどうか〉			
財政面、人員配置、補助金関係、各商工会の建物の現状などを総合的に検討する必要があるため、該当会の事務局総轄者からの意見を聞きながら進めることにした。			
【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況	取組評価の効率性が	a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合)	c
〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉			
具体的な策定に取り掛かれずにいるため、未だ検討段階である。			
2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果が すべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合			B
・財政面や人員配置などの幅広い視点からの検討が必要であり時間を要しているが、該当会の総轄者から意見を聞きながら進める。 ・既に統廃合を済ませている商工会から情報を得ており、事例としてガイドラインに盛り込む予定である。			
3. 課題			
これから統廃合の検討が必要な事務局総轄者から、現場の現実的な課題についての意見集約を行い、ガイドラインに盛り込む必要がある。			
4. 今後の対応方針(改善点)			
平成32年度以降の県補助金等の方向性と連動させながら、商工会の財政面や人員配置、各商工会の建物の現状などの調査及び情報収集を行う。また、該当事務局総轄者等からの意見集約を行いながらガイドラインを策定する。			